

# 思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実

## ◇ 子どもが自分の考えをもつときとは？



(1) 課題の意味や発問の意図が分かったとき

(2) 考える視点や方法が分かっているとき

(3) 考えるための手がかりがあるとき

(4) 考える時間があるとき（間）

考えをもたせるきっかけ（思考のヒント）を与えていますか？

## ◇ 思考を促す発問とは？

### 子どもの考えを揺さぶる

これまでの既習内容や経験に反することを投げかける。  
「～だったよね。でも、～なのははどうしてだろう。」

### 考えを照らし合わせる

子ども相互の考えを予想したり、再生したりさせる。  
「Aさんの言葉の続きを言えるかな。」  
「Bさんの考えていることわかりますか。」

### 分類や比較をさせる

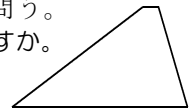
調べたことや友達の前考え等の間にある相違点や共通点を見付け出させる。  
「AさんとBさんの考えの似ているところはどこかな。」

### 関連付けさせる

分かった事柄の間に、どのような関係があるのかを考えさせる。  
「分かったことをつなげると、どんなことが言えるのかな。」

### 葛藤を生む

これまでの学習から、どちらか判断に迷うことを問う。  
「これは、三角形ですか。四角形ですか。」



### 矛盾・対立を生む

考えの共通点や相違点を整理したり、根拠や微妙な違いを問い返したりする。  
「みんなは同じって言ったけど、～というところは本当に同じかな。」

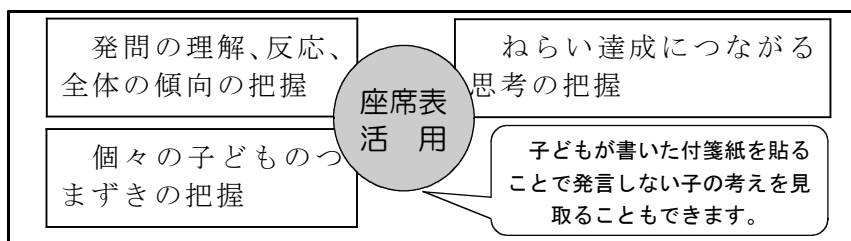
ポイントは  
目指す  
子どもの姿

### 多面的に見させる

新たな視点でアプローチする方法を示し、子どもによる解決を促す。  
「もし、～だったらどうなるだろうか。」

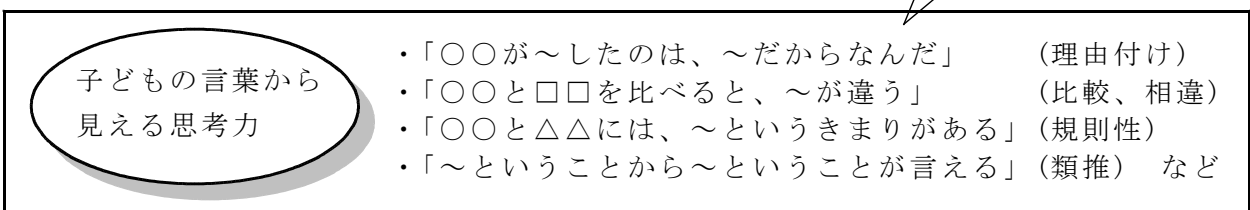
## ◇ 何を、どうやって見取るか？

〈机間指導で見取る〉



こうした発言を見取り、価値付けて、広める。  
「～という言葉を使ったから、わかりやすかったね。みんなも使ってみよう。」

〈子どもの発言から見取る〉

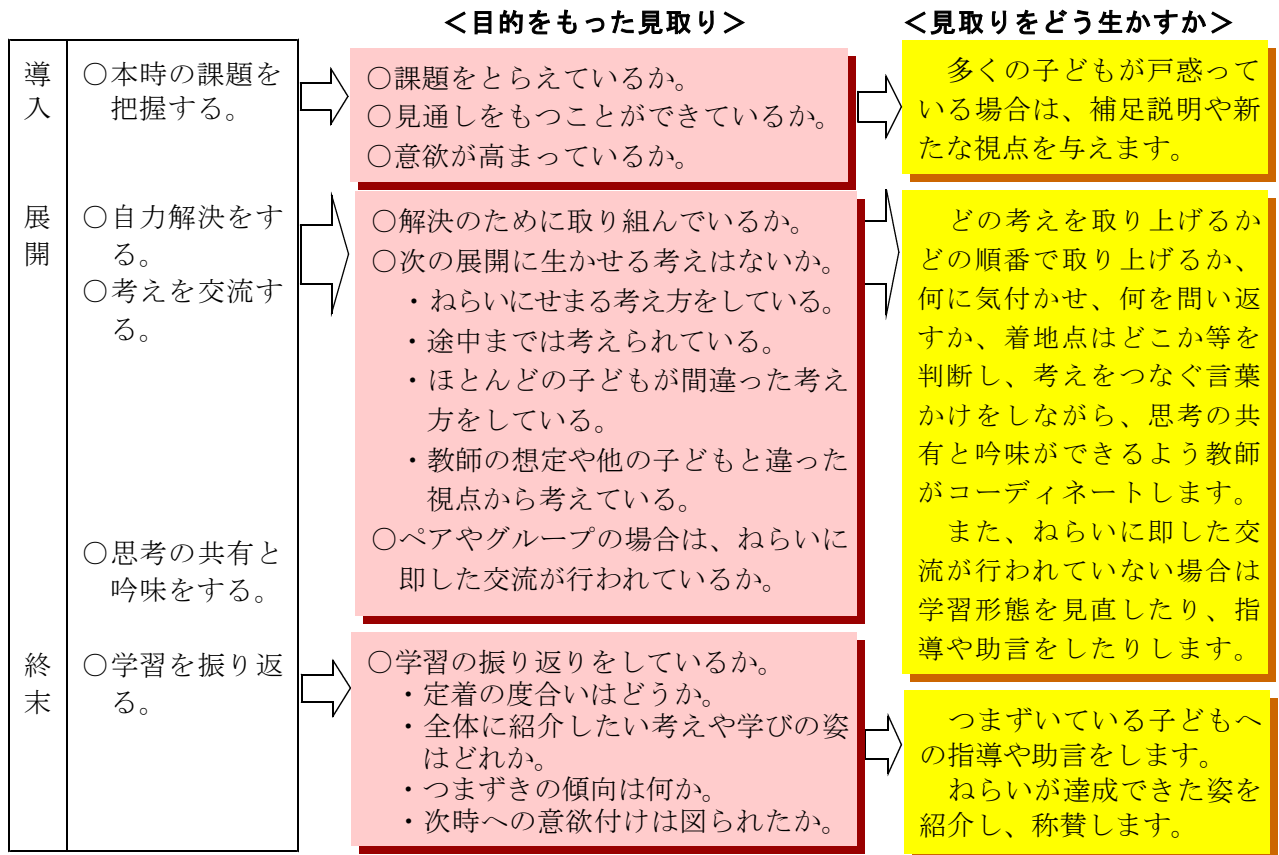


〈ノート等から見取る〉

- 自分の考えを書いた部分から子どもの思考過程を確実に見取り、授業展開に生かす。
  - よい点を称賛したり、励ましのコメントを入れたりしながら意欲を高める。
  - 授業後に自分の指導を振り返ったり、次時の指導に生かしたりする。
- (ノート指導はP. 15を参照)



## ◇ どの場面で何を見取り、どのように授業展開に生かすか？

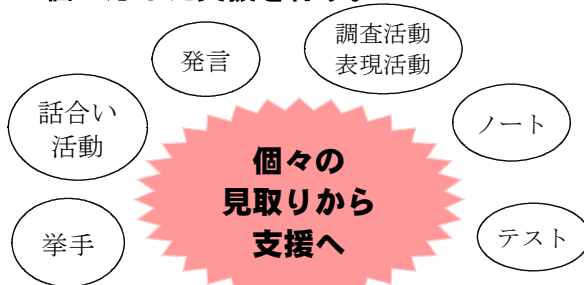


(思考の共有と吟味、教師のコーディネートについてはP.13・14参照)

### 【机間指導の留意点】

- ・ ただ巡視するのではなく、「何を見取るのか」という目的をもって机間指導を行う。
- ・ 指示した内容や活動が適切であるか判断し、授業の展開や指導形態の見直しを図るなど、教師自身の指導の在り方へとフィードバックさせ、よりよい指導を追究する。
- ・ 子どもたちが自分から話すことができるような温かい雰囲気づくりを心がける。

### ○ 様々な機会を一人一人を把握し、個に応じた支援を行う。



#### 子どもの姿から教師自身の振り返りへ

個別指導も大切ですが、一斉指導における教師自身の話すスピードや間、発問内容、板書等が適切であるかどうかの振り返りも必要です。

- 教師の話が全員にしっかりと伝わっているか。
- 本時の課題をつかませることができたか。
- 課題解決の方法を見付け出させたか。
- 本時の評価を具体的に設定しているか。

#### 見直しを充実させる指導・支援

問題をいろいろな方法で繰り返し解決させたり、答えを自ら確認させたりすることで子どもたちの定着度が大きく違ってきます。

- 問題の解き方や解答を再確認することの習慣化
- ペアやグループでの見直し
- 教師の意図的な問題や課題の提示

#### 個に応じた指導・支援

子ども一人一人の実態を的確にとらえ、理解度に合わせた問題を用意することによって意欲が高まります。

- 基本から発展までの数種類の問題を準備
- 発言しない子への言葉かけ
- 理解度に合わせた家庭学習の提案

#### 興味・関心や得意分野などを生かした指導・支援

子どもの問題点だけでなく、よさを生かす視点で個別指導を行うことが大切です。

- よさを見付け、全体に広げ、認める等の称賛  
(例)「〇〇さんは、みんなが気付かなかったことを見付けて発表しました。すばらしいですね。」